

受付番号 100000

調査年月日 令和8年〇月〇日

報告年月日 令和 年 月 日

耐震診断結果報告書の内容

新耐震基準の木造住宅の耐震診断は
本様式により結果を報告します。

木造住宅耐震診断結果報告書
【新耐震基準】



申請者名	〇〇 〇〇		様
耐震 診断員	氏名	▲▲ ▲▲	
	登録証番号	07尾-0000	
	所属	▲▲建築設計事務所	
	電話	0564-XX-XXXX	

この報告書は、再発行できません。失くさないように、大切に保管していただきますようお願いいたします。

この診断は、国土交通省による「木造住宅の耐震診断と補強方法」に基づくもので、十分信頼できるものですが、個々の建物ごとに状況が異なるため、あくまで安全性を判断する目安であり、判定を完全に保証するものではありません。また、図面などの資料がなく、状況が十分に把握できない場合は推計によりますので、診断結果は幅をもってとらえてください。

1. 耐震診断を実施した建築物概要

建物名称	〇〇 〇〇 様邸		
所在地	岡崎市〇〇町〇丁目〇番地		
用途	専用住宅	1階床面積	33.12 m ²
建築年度	昭和57年(1982年)	2階床面積	20.70 m ²
構造形式	在来軸組構法(方法1)	延べ面積	53.82 m ²
想定震度	震度6弱程度	液状化危険度	極めて低い

2. 耐震診断の結果

- 大規模な地震に対してあなたの家は

倒壊する可能性が高い

と判定されました。

※大規模な地震とは、震度6強から震度7クラスの地震をいいます。

- あなたの家の判定値（上部構造評点）

0.65	判定値（上部構造評点）	判定	安全性の度合い
	1.5以上	倒壊しない	高い
	1.0以上～1.5未満	一応倒壊しない	↑
	0.7以上～1.0未満	倒壊する可能性がある	↓
	0.7未満	倒壊する可能性が高い	低い

※ 判定値(上部構造評点)は、建物を持っている耐力(壁の強さ、バランス、建物の傷み具合)と、地震に耐えるために必要な耐力(建物の重さ、大きさ、階数、地盤)を比較して求めます。

※ この診断では目視できない筋かいを旧図面が信頼できるものとし、あるものとして診断しています。実際の筋かいの状況により結果が相違する場合があります。

- あなたの家は、耐震診断の結果「倒壊する可能性が高い」と判定されましたので、地震に対して安全な構造となるよう耐震改修工事等を実施されることをお勧めします。

3. 所見

壁量	・ 有効な壁の量が不足で、配置も偏っています。バランスよく既設壁の補強を行ってください。
金物	・
床組	・
基礎	・
劣化	・
その他	・ 家具の転倒防止をお勧めします。

4. 耐震改修工事費の目安


○あなたの家の耐震改修工事費の目安は

平均額 **159** 万円

です。

- ※ 愛知県内で補助金を利用した耐震改修工事の費用の実績より、住宅の延べ面積と耐震改修工事の前後の判定値の差から算定しています。
- ※ 耐震改修工事費の目安は、あくまで参考としてご利用ください。実際の工事費は、改修工法、敷地条件、改修設計の内容等により異なります。またリフォーム工事に関する費用は、含まれていません。耐震改修工事費とは別に、補強設計費、工事監理費等が必要となる場合があります。

○耐震診断から耐震改修工事まで

地震に強い家にするには、この後どうしたらよいの？	<p>判定値1.0未満のため、耐震改修工事を検討しましょう。</p> <p>耐震改修工事をするには改修設計が必要です。まずは建築士にご相談ください。(相談料、見積り料、設計料などが必要となる場合があります。)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>耐震診断</p> <p>この報告書が耐震診断の結果です</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>改修設計</p> <p>自治体の改修設計助成制度等を利用できる場合があります</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>耐震改修工事</p> <p>自治体の耐震改修助成制度等を利用できる場合があります</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>倒壊しにくい家</p> </div> </div>																													
耐震改修工事は何を？	耐震改修工事の工法には、壁の補強、金物補強、基礎の補強、屋根の軽量化、劣化部の改修などがあり、これらを組み合わせて耐震改修を行います。																													
我が家はどれくらいの補強が必要なの？	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>補強目安</th> <th>階</th> <th>方向</th> <th>階別・方向別上部構造評点</th> <th>枚数</th> <th>現状の壁のバランス</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center; vertical-align: middle;">3 枚程度</td> <td rowspan="2">2階</td> <td>X</td> <td>1.25</td> <td>OK 枚程度</td> <td>壁量のバランスはよい</td> </tr> <tr> <td>Y</td> <td>1.65</td> <td>OK 枚程度</td> <td>壁量のバランスはよい</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">1階</td> <td>X</td> <td>0.65</td> <td>3 枚程度</td> <td>壁量に偏りがありバランスが悪い</td> </tr> <tr> <td>Y</td> <td>1.44</td> <td>OK 枚程度</td> <td>壁量のバランスはよい</td> </tr> </tbody> </table>	補強目安	階	方向	階別・方向別上部構造評点	枚数	現状の壁のバランス	3 枚程度	2階	X	1.25	OK 枚程度	壁量のバランスはよい	Y	1.65	OK 枚程度	壁量のバランスはよい	1階	X	0.65	3 枚程度	壁量に偏りがありバランスが悪い	Y	1.44	OK 枚程度	壁量のバランスはよい	<p>※ 階別・方向別上部構造評点の最も小さい数値(表中の太文字・斜体)が建物の判定値(P.2に記載)となります。</p> <p>※ あなたの家を構造用合板(巾90cm、厚さ7.5mm以上)で補強する場合の補強枚数の目安です。補強目安(補強枚数)は、壁の配置と劣化度が問題ない場合の想定です。</p>			
補強目安	階	方向	階別・方向別上部構造評点	枚数	現状の壁のバランス																									
3 枚程度	2階	X	1.25	OK 枚程度	壁量のバランスはよい																									
		Y	1.65	OK 枚程度	壁量のバランスはよい																									
	1階	X	0.65	3 枚程度	壁量に偏りがありバランスが悪い																									
		Y	1.44	OK 枚程度	壁量のバランスはよい																									
誰に相談したらよいの？	<p>知り合いの建築士や施工業者に相談するか、以下の名簿等を参考に建築士や施工業者を決めましょう。</p> <p>・「あいち耐震改修推進事業者の一覧」:あいち耐震改修ポータルサイトに掲載。愛知県建築物地震対策推進協議会(推進協)の会員である建築関係団体が取りまとめた耐震改修に積極的に技術力を有している事業者の一覧。</p> <p style="text-align: center;">あいち耐震改修 施工者 設計者 一覧 検索</p> <p>※ 相談や見積りの依頼に料金は必要か、どの段階で料金が発生するかを確認してください。なお、契約をする前に、複数から見積もりを取ることも一つの方法です。必ず見積もりや契約は書面で取り交わしましょう。</p> <p>※ 建築士や施工業者から提示された改修設計の内容をよく確認し、耐震改修工事を行いましょう。</p>																													
耐震改修工事の費用負担を軽くする方法はあるの？	<ul style="list-style-type: none"> 耐震診断の結果、判定値1.0未満の場合、自治体の耐震改修助成制度等を利用できる場合があります。 耐震診断の結果、判定値1.0未満の場合に、判定値1.0以上とする耐震改修工事を行うと、税控除や地震保険割引が受けられる場合があります。詳しくは表紙の「お問い合わせ先」までお尋ねください。(同時にリフォームを行った場合は、建物の評価が見直される場合があります。) 愛知建築地震災害軽減システム研究協議会(減災協)が開発した「安価な工法」があります。最小限の工事で安く上げたいのか、予算をかけてリフォーム等を併せて行いたいのか、建築士や施工業者とよく相談してください。 																													

5. 現地調査結果（現地調査票）

○建築物概要

地盤	地盤種別	悪い(軟弱地盤割増1.0)		地形	形状	平坦、普通
	液状化危険度	極めて低い			対策の程度	特別な対策を行っていない
	対策の程度	特別な対策を行っていない			注意事項	
基礎		I 健全な鉄筋コンクリート造布基礎またはべた基礎				
屋根仕様		棧瓦葺(葺土なし)				
壁仕様		外壁	ラスモルタル(土壁)	内壁	ボード貼(土壁)	
建物の重さ		重い建物		伝統構法木造部分 無		
平面の特徴		整形		立面の特徴	整形でオーバーハングなし	
床仕様		II:火打ち+荒板		吹抜け	なし	
主要な柱径		120mm以上		接合部	IV:ほぞ差し、釘打ち、かすがい等	
履歴使用	増築	無	-	規模・状況	-	
	改築	無	-	規模・状況	-	
	補修	無	-	規模・状況	-	
	用途変更	無	-	規模・状況	-	
特記事項						

○設計図書等の調査

関係図書	建築確認図書		有	住宅金融公庫関連図書	無
	設計図書	平面図	平面図(筋交い位置明記)		
		立面図	有		
		詳細図面	壁の仕様が確認できる図面あり		
	構造図等	軸組図			
現地建築物との相違	1階平面	無			
	2階平面	無			
	立面図	無			

○部分点検調査（評点に反映しない部分） 目視調査により、調査可能な部分について記入しています。

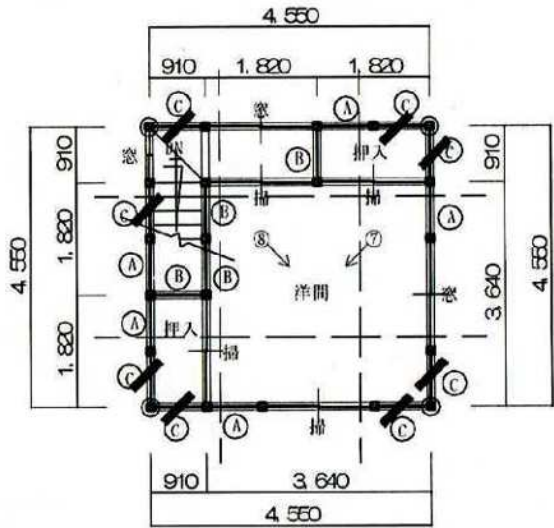
部位等		調査内容		コメント
建物周辺の地盤条件		擁壁等はない		
構造耐力上主要な軸組等	柱	部材の断面欠損	部材に大きな欠きこみ、割れはない	目視にて確認
	梁		部材に大きな欠きこみ、割れはない	小屋裏の目視可能範囲にて確認
	桁		部材に大きな欠きこみ、割れはない	小屋裏の目視可能範囲にて確認
	筋かい	有無	筋かいを図面で確認	
	土台と柱	接合金物(H12告示)の存在	不明	確認不能
	柱と梁桁		有	ゆるみ、錆、腐食等はない
筋かい材	不明		確認不能	
床組部分		確認不能		
梁と柱、差し鴨居		接合方法	確認不能	
筋かい端部		確認不能		
水平剛性の確保	2階床面、小屋梁面	火打ち等はあるが、小屋裏金物が十分使用されていない		小屋裏の目視可能範囲にて確認
	吹抜け	吹抜けなし		
下屋、増築部		接合方法	接合部は確認不能	

○劣化度調査票

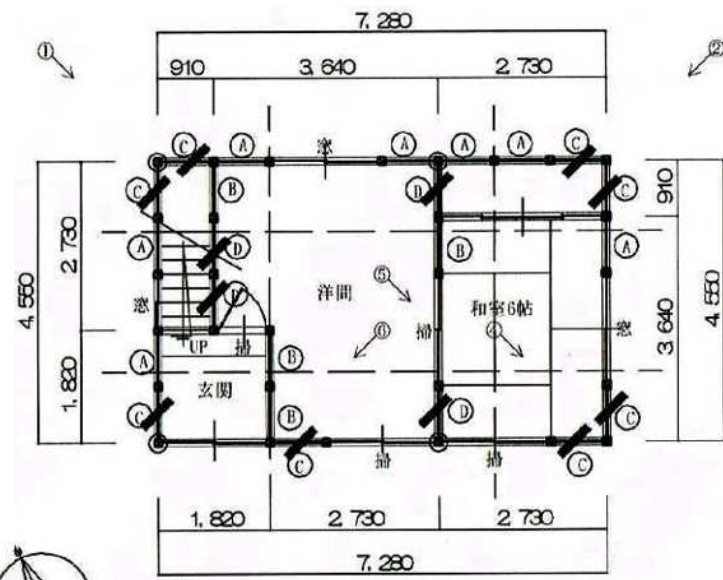
部位	材料、部材等	存在	劣化事象	劣化度	
屋根 葺き材	金属板	有	割れ、欠け、ずれ、欠落がない	:劣化無	
	瓦・スレート				
樋	軒・呼び樋	有	変退色、さび、割れ、ずれ、欠落がない	:劣化無	
	縦樋	有	変退色、さび、割れ、ずれ、欠落がない	:劣化無	
外壁 仕上げ	木製板、合板	有	水浸み痕、こげ、割れ、抜け節、ずれ、腐朽がない	:劣化無	
	窯業系サイディング				
	金属サイディング				
	モルタル				
露出した躯体					
バルコニー	手すり 壁	木製板、合板			
		窯業系サイディング			
		金属サイディング			
	外壁との接合部				
	床排水				
内壁	一般室	内壁、窓下	有	水浸み痕、はがれ、亀裂、カビがない	:劣化無
	浴室	タイル壁	有	水浸み痕、変色、亀裂、カビ、腐朽、蟻害がない	:劣化無
タイル以外					
床	床面	一般室	有	傾斜、過度の振動、床鳴りがない	:劣化無
		廊下	有	傾斜、過度の振動、床鳴りがない	:劣化無
		床下	無	基礎の亀裂や床下部材に腐朽、蟻道、蟻害がない	:劣化無

物件名	〇〇邸	住所	岡崎市〇〇町〇丁目〇番地
写真①		写真②	
写真①		写真②	
写真③		写真④	
写真③		写真④	
写真⑤		写真⑥	
写真⑤		写真⑥	

物件名	〇〇邸	住所	岡崎市〇〇町〇丁目〇番地
写真⑦		写真⑧	
写真⑦		写真⑧	
写真⑨		写真⑩	
写真⑨		写真⑩	
写真⑪		写真⑫	
写真⑪		写真⑫	



二階平面図 縮尺 1/100



一階平面図 縮尺 1/100

外部仕上げ表

外壁	全面 真壁裏返し塗りカラー鉄板張り
屋根	日本瓦土葺
基礎	無筋コンクリート打ち(健全)

内部仕上げ表

一階	玄関ホール	化粧合板ア4	Fw=0.9
	和室6畳	じゅらく壁塗り	土塗り壁に準ずる
	洋間	化粧合板ア4	Fw=0.9
	階段	化粧合板ア4	Fw=0.9
二階	洋間	化粧合板ア4	Fw=0.9
	廊下	化粧合板ア4	Fw=0.9
共通	押入れ	合板ア4	Fw=0.9

面積表		
	計算式	床面積
1F	7.28 × 4.55 =	33.12㎡
2F	4.55 × 4.55 =	20.70㎡
合計		53.82㎡

- 土塗り壁は、原則目視確認にて「横架材まで達しているか」等の判断をする
- やむを得ず目視確認ができない場合は、その旨を明記し、
原則 { 外壁部分「横架材まで達する」
内壁部分「横架材間7割以上」
で評価する。

耐力壁仕様

Ⓐ	土塗り壁 塗厚 40~50 (2.4)+合板ア4 (0.9)	Fw=3.3
Ⓑ	土塗り壁 塗厚 40~50(7割) (1.5)+合板ア4 (0.9)	Fw=2.4
Ⓒ	土塗り壁 塗厚 40~50 (2.4)+筋かい 30×90 (1.9)+合板ア4 (0.9)	Fw=5.2
Ⓓ	土塗り壁 塗厚 40~50(7割) (1.5)+筋かい 30×90 (1.9)+合板ア4 (0.9)	Fw=4.3

// 既設筋交い 30×90
 掃 掃出し型開口壁 (Fw=0.3)
 窓 窓型開口壁 (Fw=0.6)
 ○ 通し柱
 写真番号

目視確認により土塗り壁は、外部「横架材まで達する」
内部「横架材間7割以上」と評価した

- ※ 目視確認により、土塗り壁は外部内部とも「横架材まで達する」と評価した。
- ※ 目視確認により土塗り壁は、外部「横架材まで達する」
内部「横架材間7割以上」と評価した。
- ※ 目視確認はできなかったが土塗り壁は、外部「横架材まで達する」
内部「横架材間7割以上」と評価した。

2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法
一般診断法による診断プログラム Wee2012 (Win10)

「一般診断法」による現況診断

方法 1 、精算法ルート

一般財団法人 日本建築防災協会

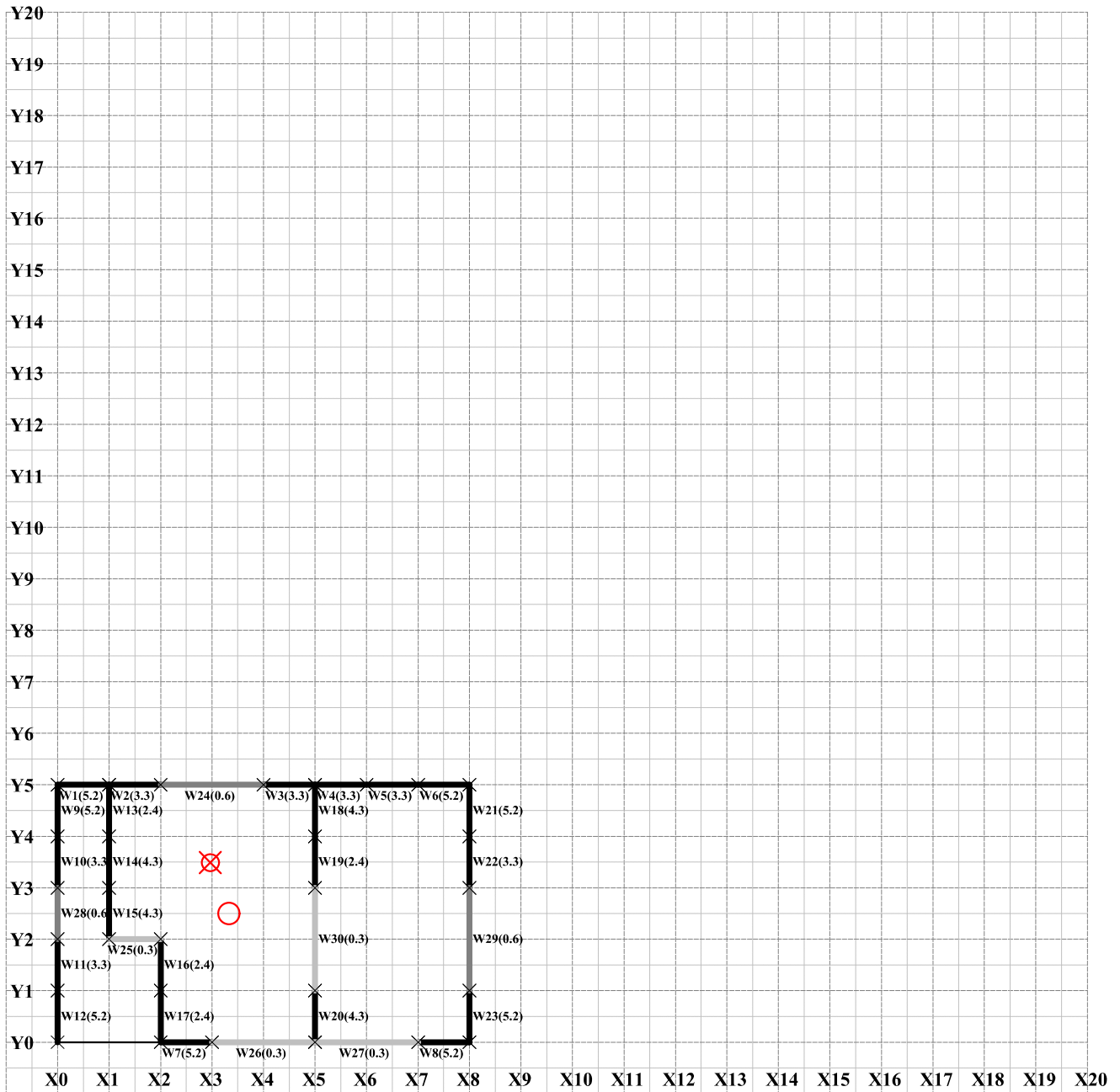
* 方法 1 は、在来軸組構法や枠組壁工法など、壁を主な耐震要素とした住宅を主な対象とする。
* 精算法ルートは、「必要耐力」に精算法を、「耐力要素の配置等による低減係数 eKf 」に偏心率を用いた計算方法です。

1. 建物概要

① 建物名称	:	〇〇邸
② 所在地	:	岡崎市十王町2丁目9番地
③ 竣工年	:	昭和 57年 築10年以上 ※調査日: 2022年 1月 1日
④ 建物仕様	:	木造2階建 重い建物 (屋根仕様: 桧瓦葺等 壁仕様: 土塗壁(外壁、内壁とも))
⑤ 地域係数 Z	:	1.0
⑥ 地盤による割増	:	1.0
⑦ 形状割増係数	:	1階=1.15
⑧ 積雪深	:	無し(100cm未満)
⑨ 基礎仕様	:	I 健全な鉄筋コンクリートの布基礎又はべた基礎
⑩ 床仕様	:	II 火打ち+荒板 (4m以上の吹き抜けなし)
⑪ 主要な柱の径	:	120mm以上
⑫ 接合部仕様	:	IV ほぞ差し、釘打ち、かすがい等
* パスとファイル	:	C:\Users\jutaku\Desktop\計算例.w20

2. 壁配置図

1階 (1モジュール=910mm)



注) W_i : 壁番号、()内は壁の耐力

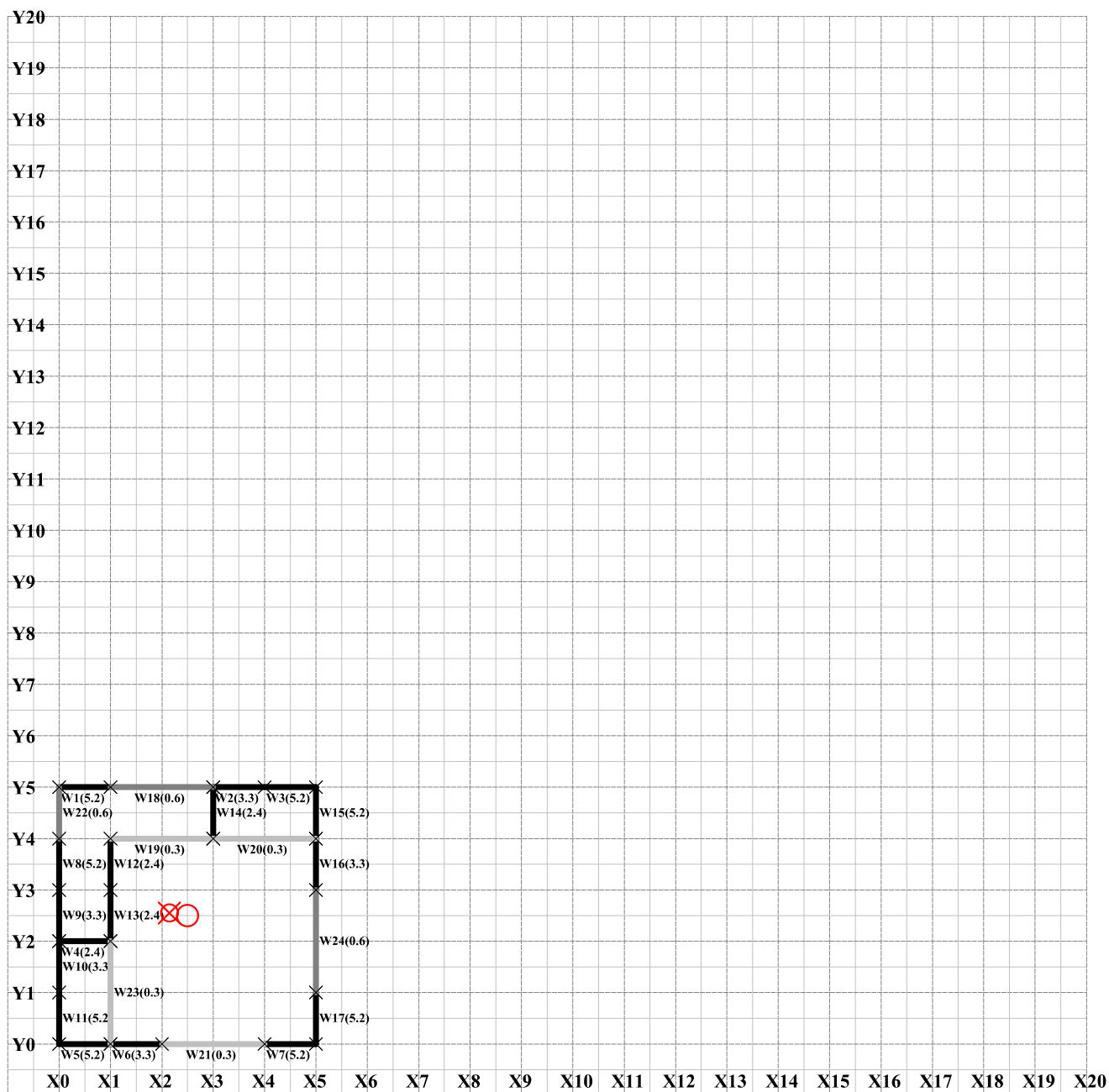
無開口壁
 窓型開口壁
 掃出し型開口壁

○: 重心位置

⊗: 剛心位置

1階の面積 = 33.12

2階 (1モジュール=910mm)



注) W_i : 壁番号、()内は壁の耐力

— 無開口壁 — 窓型開口壁 — 掃出し型開口壁

○: 重心位置

⊗: 剛心位置

2階の面積 = 20.70

■部材リスト [その他(別添仕様)がある場合は、具体的仕様がわかる資料を添付]

<1階> 壁

W1	(X0,Y5)-(X1,Y5)	壁基準耐力=5.2 外面: 2.4 土塗り壁 塗厚40以上~50未満(横架材まで達する場合) (kN/m) 芯 : 1.9 筋かい木材30x90以上,釘打ち(片筋) 外面: 0.9 合板(厚3以上) 接合部仕様:Ⅲ ほぞ差し、釘打ち、かすがい等(構面の両端が通し柱の場合) 基礎仕様:同建物概要の基礎仕様
W2	(X1,Y5)-(X2,Y5)	壁基準耐力=3.3 外面: 2.4 土塗り壁 塗厚40以上~50未満(横架材まで達する場合) (kN/m) 芯 : 0 無し 外面: 0.9 合板(厚3以上) 接合部仕様:Ⅲ ほぞ差し、釘打ち、かすがい等(構面の両端が通し柱の場合) 基礎仕様:同建物概要の基礎仕様
W3	(X4,Y5)-(X5,Y5)	壁基準耐力=3.3 外面: 2.4 土塗り壁 塗厚40以上~50未満(横架材まで達する場合) (kN/m) 芯 : 0 無し 外面: 0.9 合板(厚3以上) 接合部仕様:Ⅲ ほぞ差し、釘打ち、かすがい等(構面の両端が通し柱の場合) 基礎仕様:同建物概要の基礎仕様
W4	(X5,Y5)-(X6,Y5)	壁基準耐力=3.3 外面: 2.4 土塗り壁 塗厚40以上~50未満(横架材まで達する場合) (kN/m) 芯 : 0 無し 外面: 0.9 合板(厚3以上) 接合部仕様:Ⅲ ほぞ差し、釘打ち、かすがい等(構面の両端が通し柱の場合) 基礎仕様:同建物概要の基礎仕様
W5	(X6,Y5)-(X7,Y5)	壁基準耐力=3.3 外面: 2.4 土塗り壁 塗厚40以上~50未満(横架材まで達する場合) (kN/m) 芯 : 0 無し 外面: 0.9 合板(厚3以上) 接合部仕様:Ⅲ ほぞ差し、釘打ち、かすがい等(構面の両端が通し柱の場合) 基礎仕様:同建物概要の基礎仕様
W6	(X7,Y5)-(X8,Y5)	壁基準耐力=5.2 外面: 2.4 土塗り壁 塗厚40以上~50未満(横架材まで達する場合) (kN/m) 芯 : 1.9 筋かい木材30x90以上,釘打ち(片筋) 外面: 0.9 合板(厚3以上) 接合部仕様:Ⅲ ほぞ差し、釘打ち、かすがい等(構面の両端が通し柱の場合) 基礎仕様:同建物概要の基礎仕様
W7	(X2,Y0)-(X3,Y0)	壁基準耐力=5.2 外面: 2.4 土塗り壁 塗厚40以上~50未満(横架材まで達する場合) (kN/m) 芯 : 1.9 筋かい木材30x90以上,釘打ち(片筋) 外面: 0.9 合板(厚3以上) 接合部仕様:Ⅲ ほぞ差し、釘打ち、かすがい等(構面の両端が通し柱の場合) 基礎仕様:同建物概要の基礎仕様
W8	(X7,Y0)-(X8,Y0)	壁基準耐力=5.2 外面: 2.4 土塗り壁 塗厚40以上~50未満(横架材まで達する場合) (kN/m) 芯 : 1.9 筋かい木材30x90以上,釘打ち(片筋) 外面: 0.9 合板(厚3以上) 接合部仕様:Ⅲ ほぞ差し、釘打ち、かすがい等(構面の両端が通し柱の場合) 基礎仕様:同建物概要の基礎仕様
W9	(X0,Y5)-(X0,Y4)	壁基準耐力=5.2 外面: 2.4 土塗り壁 塗厚40以上~50未満(横架材まで達する場合) (kN/m) 芯 : 1.9 筋かい木材30x90以上,釘打ち(片筋) 外面: 0.9 合板(厚3以上)

		接合部仕様 : III ほぞ差し、釘打ち、かすがい等(構面の両端が通し柱の場合) 基礎仕様:同建物概要の基礎仕様
W10	(X0,Y4)-(X0,Y3)	壁基準耐力=3.3 外面: 2.4 土塗り壁 塗厚40以上~50未満(横架材まで達する場合) (kN/m) 芯 : 0 無し 外面: 0.9 合板(厚3以上) 接合部仕様 : III ほぞ差し、釘打ち、かすがい等(構面の両端が通し柱の場合) 基礎仕様:同建物概要の基礎仕様
W11	(X0,Y2)-(X0,Y1)	壁基準耐力=3.3 外面: 2.4 土塗り壁 塗厚40以上~50未満(横架材まで達する場合) (kN/m) 芯 : 0 無し 外面: 0.9 合板(厚3以上) 接合部仕様 : III ほぞ差し、釘打ち、かすがい等(構面の両端が通し柱の場合) 基礎仕様:同建物概要の基礎仕様
W12	(X0,Y1)-(X0,Y0)	壁基準耐力=5.2 外面: 2.4 土塗り壁 塗厚40以上~50未満(横架材まで達する場合) (kN/m) 芯 : 1.9 筋かい木材30x90以上,釘打ち(片筋) 外面: 0.9 合板(厚3以上) 接合部仕様 : III ほぞ差し、釘打ち、かすがい等(構面の両端が通し柱の場合) 基礎仕様:同建物概要の基礎仕様
W13	(X1,Y5)-(X1,Y4)	壁基準耐力=2.4 外面: 1.5 土塗り壁 塗厚40以上~50未満(横架材7割以上) (kN/m) 芯 : 0 無し 外面: 0.9 合板(厚3以上) 接合部仕様 : 同建物概要の接合部仕様 基礎仕様:同建物概要の基礎仕様
W14	(X1,Y4)-(X1,Y3)	壁基準耐力=4.3 外面: 1.5 土塗り壁 塗厚40以上~50未満(横架材7割以上) (kN/m) 芯 : 1.9 筋かい木材30x90以上,釘打ち(片筋) 外面: 0.9 合板(厚3以上) 接合部仕様 : 同建物概要の接合部仕様 基礎仕様:同建物概要の基礎仕様
W15	(X1,Y3)-(X1,Y2)	壁基準耐力=4.3 外面: 1.5 土塗り壁 塗厚40以上~50未満(横架材7割以上) (kN/m) 芯 : 1.9 筋かい木材30x90以上,釘打ち(片筋) 外面: 0.9 合板(厚3以上) 接合部仕様 : 同建物概要の接合部仕様 基礎仕様:同建物概要の基礎仕様
W16	(X2,Y2)-(X2,Y1)	壁基準耐力=2.4 外面: 1.5 土塗り壁 塗厚40以上~50未満(横架材7割以上) (kN/m) 芯 : 0 無し 外面: 0.9 合板(厚3以上) 接合部仕様 : 同建物概要の接合部仕様 基礎仕様:同建物概要の基礎仕様
W17	(X2,Y1)-(X2,Y0)	壁基準耐力=2.4 外面: 1.5 土塗り壁 塗厚40以上~50未満(横架材7割以上) (kN/m) 芯 : 0 無し 外面: 0.9 合板(厚3以上) 接合部仕様 : 同建物概要の接合部仕様 基礎仕様:同建物概要の基礎仕様
W18	(X5,Y5)-(X5,Y4)	壁基準耐力=4.3 外面: 1.5 土塗り壁 塗厚40以上~50未満(横架材7割以上) (kN/m) 芯 : 1.9 筋かい木材30x90以上,釘打ち(片筋) 外面: 0.9 合板(厚3以上)

		接合部仕様 : III ほぞ差し、釘打ち、かすがい等(構面の両端が通し柱の場合) 基礎仕様:同建物概要の基礎仕様
W19	(X5,Y4)-(X5,Y3)	壁基準耐力=2.4 外面: 1.5 土塗り壁 塗厚40以上~50未満(横架材7割以上) (kN/m) 芯 : 0 無し 外面: 0.9 合板(厚3以上) 接合部仕様 : III ほぞ差し、釘打ち、かすがい等(構面の両端が通し柱の場合) 基礎仕様:同建物概要の基礎仕様
W20	(X5,Y1)-(X5,Y0)	壁基準耐力=4.3 外面: 1.5 土塗り壁 塗厚40以上~50未満(横架材7割以上) (kN/m) 芯 : 1.9 筋かい木材30x90以上,釘打ち(片筋) 外面: 0.9 合板(厚3以上) 接合部仕様 : 同建物概要の接合部仕様 基礎仕様:同建物概要の基礎仕様
W21	(X8,Y5)-(X8,Y4)	壁基準耐力=5.2 外面: 2.4 土塗り壁 塗厚40以上~50未満(横架材まで達する場合) (kN/m) 芯 : 1.9 筋かい木材30x90以上,釘打ち(片筋) 外面: 0.9 合板(厚3以上) 接合部仕様 : III ほぞ差し、釘打ち、かすがい等(構面の両端が通し柱の場合) 基礎仕様:同建物概要の基礎仕様
W22	(X8,Y4)-(X8,Y3)	壁基準耐力=3.3 外面: 2.4 土塗り壁 塗厚40以上~50未満(横架材まで達する場合) (kN/m) 芯 : 0 無し 外面: 0.9 合板(厚3以上) 接合部仕様 : III ほぞ差し、釘打ち、かすがい等(構面の両端が通し柱の場合) 基礎仕様:同建物概要の基礎仕様
W23	(X8,Y1)-(X8,Y0)	壁基準耐力=5.2 外面: 2.4 土塗り壁 塗厚40以上~50未満(横架材まで達する場合) (kN/m) 芯 : 1.9 筋かい木材30x90以上,釘打ち(片筋) 外面: 0.9 合板(厚3以上) 接合部仕様 : III ほぞ差し、釘打ち、かすがい等(構面の両端が通し柱の場合) 基礎仕様:同建物概要の基礎仕様
W24	(X2,Y5)-(X4,Y5)	壁基準耐力=0.6 外面: 0 窓型開口壁 (kN/m) 芯 : 0 窓型開口壁 外面: 0 窓型開口壁 接合部仕様 : III ほぞ差し、釘打ち、かすがい等(構面の両端が通し柱の場合) 基礎仕様:同建物概要の基礎仕様
W25	(X1,Y2)-(X2,Y2)	壁基準耐力=0.3 外面: 0 掃き出し型開口壁 (kN/m) 芯 : 0 掃き出し型開口壁 外面: 0 掃き出し型開口壁 接合部仕様 : 同建物概要の接合部仕様 基礎仕様:同建物概要の基礎仕様
W26	(X3,Y0)-(X5,Y0)	壁基準耐力=0.3 外面: 0 掃き出し型開口壁 (kN/m) 芯 : 0 掃き出し型開口壁 外面: 0 掃き出し型開口壁 接合部仕様 : III ほぞ差し、釘打ち、かすがい等(構面の両端が通し柱の場合) 基礎仕様:同建物概要の基礎仕様
W27	(X5,Y0)-(X7,Y0)	壁基準耐力=0.3 外面: 0 掃き出し型開口壁 (kN/m) 芯 : 0 掃き出し型開口壁 外面: 0 掃き出し型開口壁

		接合部仕様 : III ほぞ差し、釘打ち、かすがい等(構面の両端が通し柱の場合) 基礎仕様:同建物概要の基礎仕様
W28	(X0,Y3)-(X0,Y2)	壁基準耐力=0.6 外面: 0 窓型開口壁 (kN/m) 芯 : 0 窓型開口壁 外面: 0 窓型開口壁 接合部仕様 : III ほぞ差し、釘打ち、かすがい等(構面の両端が通し柱の場合) 基礎仕様:同建物概要の基礎仕様
W29	(X8,Y3)-(X8,Y1)	壁基準耐力=0.6 外面: 0 窓型開口壁 (kN/m) 芯 : 0 窓型開口壁 外面: 0 窓型開口壁 接合部仕様 : III ほぞ差し、釘打ち、かすがい等(構面の両端が通し柱の場合) 基礎仕様:同建物概要の基礎仕様
W30	(X5,Y3)-(X5,Y1)	壁基準耐力=0.3 外面: 0 掃き出し型開口壁 (kN/m) 芯 : 0 掃き出し型開口壁 外面: 0 掃き出し型開口壁 接合部仕様 : III ほぞ差し、釘打ち、かすがい等(構面の両端が通し柱の場合) 基礎仕様:同建物概要の基礎仕様
<2階> 壁		
W1	(X0,Y5)-(X1,Y5)	壁基準耐力=5.2 外面: 2.4 土塗り壁 塗厚40以上~50未満(横架材まで達する場合) (kN/m) 芯 : 1.9 筋かい木材30x90以上,釘打ち(片筋) 外面: 0.9 合板(厚3以上) 接合部仕様 : III ほぞ差し、釘打ち、かすがい等(構面の両端が通し柱の場合)
W2	(X3,Y5)-(X4,Y5)	壁基準耐力=3.3 外面: 2.4 土塗り壁 塗厚40以上~50未満(横架材まで達する場合) (kN/m) 芯 : 0 無し 外面: 0.9 合板(厚3以上) 接合部仕様 : III ほぞ差し、釘打ち、かすがい等(構面の両端が通し柱の場合)
W3	(X4,Y5)-(X5,Y5)	壁基準耐力=5.2 外面: 2.4 土塗り壁 塗厚40以上~50未満(横架材まで達する場合) (kN/m) 芯 : 1.9 筋かい木材30x90以上,釘打ち(片筋) 外面: 0.9 合板(厚3以上) 接合部仕様 : III ほぞ差し、釘打ち、かすがい等(構面の両端が通し柱の場合)
W4	(X0,Y2)-(X1,Y2)	壁基準耐力=2.4 外面: 1.5 土塗り壁 塗厚40以上~50未満(横架材7割以上) (kN/m) 芯 : 0 無し 外面: 0.9 合板(厚3以上) 接合部仕様 : 同建物概要の接合部仕様
W5	(X0,Y0)-(X1,Y0)	壁基準耐力=5.2 外面: 2.4 土塗り壁 塗厚40以上~50未満(横架材まで達する場合) (kN/m) 芯 : 1.9 筋かい木材30x90以上,釘打ち(片筋) 外面: 0.9 合板(厚3以上) 接合部仕様 : III ほぞ差し、釘打ち、かすがい等(構面の両端が通し柱の場合)
W6	(X1,Y0)-(X2,Y0)	壁基準耐力=3.3 外面: 2.4 土塗り壁 塗厚40以上~50未満(横架材まで達する場合) (kN/m) 芯 : 0 無し 外面: 0.9 合板(厚3以上) 接合部仕様 : III ほぞ差し、釘打ち、かすがい等(構面の両端が通し柱の場合)
W7	(X4,Y0)-(X5,Y0)	壁基準耐力=5.2 外面: 2.4 土塗り壁 塗厚40以上~50未満(横架材まで達する場合) (kN/m) 芯 : 1.9 筋かい木材30x90以上,釘打ち(片筋)

		外面: 0.9 合板(厚3以上)
W8	(X0,Y4)-(X0,Y3)	接合部仕様:Ⅲ ほぞ差し、釘打ち、かすがい等(構面の両端が通し柱の場合) 壁基準耐力=5.2 外面: 2.4 土塗り壁 塗厚40以上~50未満(横架材まで達する場合) (kN/m) 芯 : 1.9 筋かい木材30x90以上,釘打ち(片筋) 外面: 0.9 合板(厚3以上)
W9	(X0,Y3)-(X0,Y2)	接合部仕様:Ⅲ ほぞ差し、釘打ち、かすがい等(構面の両端が通し柱の場合) 壁基準耐力=3.3 外面: 2.4 土塗り壁 塗厚40以上~50未満(横架材まで達する場合) (kN/m) 芯 : 0 無し 外面: 0.9 合板(厚3以上)
W10	(X0,Y2)-(X0,Y1)	接合部仕様:Ⅲ ほぞ差し、釘打ち、かすがい等(構面の両端が通し柱の場合) 壁基準耐力=3.3 外面: 2.4 土塗り壁 塗厚40以上~50未満(横架材まで達する場合) (kN/m) 芯 : 0 無し 外面: 0.9 合板(厚3以上)
W11	(X0,Y1)-(X0,Y0)	接合部仕様:Ⅲ ほぞ差し、釘打ち、かすがい等(構面の両端が通し柱の場合) 壁基準耐力=5.2 外面: 2.4 土塗り壁 塗厚40以上~50未満(横架材まで達する場合) (kN/m) 芯 : 1.9 筋かい木材30x90以上,釘打ち(片筋) 外面: 0.9 合板(厚3以上)
W12	(X1,Y4)-(X1,Y3)	接合部仕様:Ⅲ ほぞ差し、釘打ち、かすがい等(構面の両端が通し柱の場合) 壁基準耐力=2.4 外面: 1.5 土塗り壁 塗厚40以上~50未満(横架材7割以上) (kN/m) 芯 : 0 無し 外面: 0.9 合板(厚3以上)
W13	(X1,Y3)-(X1,Y2)	接合部仕様:同建物概要の接合部仕様 壁基準耐力=2.4 外面: 1.5 土塗り壁 塗厚40以上~50未満(横架材7割以上) (kN/m) 芯 : 0 無し 外面: 0.9 合板(厚3以上)
W14	(X3,Y5)-(X3,Y4)	接合部仕様:同建物概要の接合部仕様 壁基準耐力=2.4 外面: 1.5 土塗り壁 塗厚40以上~50未満(横架材7割以上) (kN/m) 芯 : 0 無し 外面: 0.9 合板(厚3以上)
W15	(X5,Y5)-(X5,Y4)	接合部仕様:同建物概要の接合部仕様 壁基準耐力=5.2 外面: 2.4 土塗り壁 塗厚40以上~50未満(横架材まで達する場合) (kN/m) 芯 : 1.9 筋かい木材30x90以上,釘打ち(片筋) 外面: 0.9 合板(厚3以上)
W16	(X5,Y4)-(X5,Y3)	接合部仕様:Ⅲ ほぞ差し、釘打ち、かすがい等(構面の両端が通し柱の場合) 壁基準耐力=3.3 外面: 2.4 土塗り壁 塗厚40以上~50未満(横架材まで達する場合) (kN/m) 芯 : 0 無し 外面: 0.9 合板(厚3以上)
W17	(X5,Y1)-(X5,Y0)	接合部仕様:Ⅲ ほぞ差し、釘打ち、かすがい等(構面の両端が通し柱の場合) 壁基準耐力=5.2 外面: 2.4 土塗り壁 塗厚40以上~50未満(横架材まで達する場合) (kN/m) 芯 : 1.9 筋かい木材30x90以上,釘打ち(片筋) 外面: 0.9 合板(厚3以上)
W18	(X1,Y5)-(X3,Y5)	接合部仕様:Ⅲ ほぞ差し、釘打ち、かすがい等(構面の両端が通し柱の場合) 壁基準耐力=0.6 外面: 0 窓型開口壁 (kN/m) 芯 : 0 窓型開口壁 外面: 0 窓型開口壁

		接合部仕様 : III ほぞ差し、釘打ち、かすがい等(構面の両端が通し柱の場合)
W19	(X1,Y4)-(X3,Y4)	壁基準耐力=0.3 外面: 0 掃き出し型開口壁 (kN/m) 芯 : 0 掃き出し型開口壁 外面: 0 掃き出し型開口壁
		接合部仕様 : 同建物概要の接合部仕様
W20	(X3,Y4)-(X5,Y4)	壁基準耐力=0.3 外面: 0 掃き出し型開口壁 (kN/m) 芯 : 0 掃き出し型開口壁 外面: 0 掃き出し型開口壁
		接合部仕様 : 同建物概要の接合部仕様
W21	(X2,Y0)-(X4,Y0)	壁基準耐力=0.3 外面: 0 掃き出し型開口壁 (kN/m) 芯 : 0 掃き出し型開口壁 外面: 0 掃き出し型開口壁
		接合部仕様 : III ほぞ差し、釘打ち、かすがい等(構面の両端が通し柱の場合)
W22	(X0,Y5)-(X0,Y4)	壁基準耐力=0.6 外面: 0 窓型開口壁 (kN/m) 芯 : 0 窓型開口壁 外面: 0 窓型開口壁
		接合部仕様 : III ほぞ差し、釘打ち、かすがい等(構面の両端が通し柱の場合)
W23	(X1,Y2)-(X1,Y0)	壁基準耐力=0.3 外面: 0 掃き出し型開口壁 (kN/m) 芯 : 0 掃き出し型開口壁 外面: 0 掃き出し型開口壁
		接合部仕様 : 同建物概要の接合部仕様
W24	(X5,Y3)-(X5,Y1)	壁基準耐力=0.6 外面: 0 窓型開口壁 (kN/m) 芯 : 0 窓型開口壁 外面: 0 窓型開口壁
		接合部仕様 : III ほぞ差し、釘打ち、かすがい等(構面の両端が通し柱の場合)

3. 必要耐力の算出 (精算法)

A : 床面積 (m²)

Q_y : 床面積当たり必要耐力 (kN/m²)

Q_s : 積雪用必要耐力 (kN/m²)

qK1 : 解表3.3、平屋建て以外の式の第2項に用いる係数。平屋建ての場合は1.0とする。

qK2 : 解表3.3、3階建ての2階の式の第3項に用いる係数。それ以外は1.0とする。

Z : 地域係数

α : 地盤による割増係数

β : 形状割増係数

γ : 混構造割増係数

Q_r : 必要耐力 (kN)

階	A	Q _y	Q _s	qK1	qK2	Z	α	β	γ	Q _r
2	20.70	0.40	0.00	1.412	1.00	1.0	1.0	1.0	1.0	11.69
1	33.12	0.92	0.00	0.775	1.00	1.0	1.0	1.15	1.0	27.16

4. 重心計算

W : 均し重量係数 (kN/m²)

重い建物	
屋根	2.00 + 0.0105 × t
床	2.60

t : 多雪区域の積雪深(cm)、多雪区域以外は0とする。

A : 床面積 (m²)

β : 形状割増係数

X、Y : 図心座標(m)

重心: $X_g = \frac{\sum(w \times \beta \times A \times X)}{\sum(w \times \beta \times A)}$ $Y_g = \frac{\sum(w \times \beta \times A \times Y)}{\sum(w \times \beta \times A)}$

方向	階	項目	W	β	A	W × β × A	X	W × β × A × X	X _g
X	2	屋根	2.00	—	20.70	41.40	2.28	94.20	2.28
	1	屋根	2.00	—	33.12	66.25	3.64	241.14	
		床	2.60	1.15	20.70	61.90	2.28	140.82	
		(計)				128.15		381.97	2.98
方向	階	項目	W	β	A	W × β × A	Y	W × β × A × Y	Y _g
Y	2	屋根	2.00	—	20.70	41.40	2.28	94.20	2.28
	1	屋根	2.00	—	33.12	66.25	2.28	150.71	
		床	2.60	1.15	20.70	61.90	2.28	140.82	
		(計)				128.15		291.54	2.28

5. 壁の耐力の算出

No. : 壁番号

Fw : 壁基準耐力 (kN/m)

Kj : 接合部耐力低減係数、壁基準耐力及び積雪深により直線補間した値

①壁基準耐力による直線補間の計算方法、KjはFwにおける低減係数

壁耐力 Fw1 [Fw] Fw2

低減係数 Kj1 [Kj] Kj2

$$Kj = Kj1 + \{ (Kj2 - Kj1) / (Fw2 - Fw1) \} \times (Fw - Fw1)$$

②積雪深による直線補間の計算方法、sKjは積雪深Sにおける低減係数

積雪深 S1 [S] S2

低減係数 sKj1 [sKj] sKj2

注)sKjは壁耐力で補間した多雪区域の低減係数

$$sKj = sKj1 + \{ (sKj2 - sKj1) / (S2 - S1) \} \times (S - S1)$$

(Ka) : 開口壁における連続長さとの開口形状による調整係数

窓が掃出しと隣接する場合、掃出しとみなすため、Ka=0.5

開口壁の連続長さが3mを超える場合は、Ka=3000/L

窓が掃出しと隣接し、連続長さが3mを超える場合は、Ka=0.5×3000/L

無開口壁と隣接しない場合は、Ka=0

L : 壁長 (mm)

Qwi : 各壁の耐力 (kN)

Qw : 壁の耐力の合計 (kN)

Qe : その他の耐震要素の耐力 (kN)

Qu : 壁・柱の耐力 (kN) Qu=Qw+Qe

X,Y : 壁の座標 (m)

Xk,Yk : 剛心座標

階	方向	No.	Fw		Kj (Ka)		L		Qwi	Y	Qwi×Y	Yk	Qwi×(Y-Yk) ²	
1	X	W1	5.20	×	0.690	×	910	=	3.27	4.550	14.86	3.17	6.176	
		W2	3.30	×	0.785	×	910	=	2.36	4.550	10.73		4.459	
		W3	3.30	×	0.785	×	910	=	2.36	4.550	10.73		4.459	
		W4	3.30	×	0.585	×	910	=	1.76	4.550	7.99		3.323	
		W5	3.30	×	0.585	×	910	=	1.76	4.550	7.99		3.323	
		W6	5.20	×	0.480	×	910	=	2.27	4.550	10.33		4.297	
		W24	0.60	×	(1.000)	×	1,820	=	1.09	4.550	4.97		2.066	
		W25	0.30	×	(0.000)	×	910	=	0.00	1.820	0.00		0.000	
		W7	5.20	×	0.690	×	910	=	3.27	0.000	0.00		32.906	
		W8	5.20	×	0.480	×	910	=	2.27	0.000	0.00		22.891	
		W26	0.30	×	(0.824)	×	1,820	=	0.45	0.000	0.00		4.535	
		W27	0.30	×	(0.824)	×	1,820	=	0.45	0.000	0.00		4.535	
(計)									Qu =	21.29	Σ =	67.60	Σ =	92.972
									Qw =	19.30				
									Qe =	1.99				
階	方向	No.	Fw		Kj (Ka)		L		Qwi	X	Qwi×X	Xk	Qwi×(X-Xk) ²	
1	Y	W9	5.20	×	0.690	×	910	=	3.27	0.000	0.00	2.70	23.783	
		W10	3.30	×	0.785	×	910	=	2.36	0.000	0.00		17.171	
		W11	3.30	×	0.785	×	910	=	2.36	0.000	0.00		17.171	
		W12	5.20	×	0.690	×	910	=	3.27	0.000	0.00		23.783	
		W13	2.40	×	0.920	×	910	=	2.01	0.910	1.83		6.430	

階	方向	No.	Fw		Kj (Ka)		L		Qwi	X	Qwi×X	Xk	Qwi×(X-Xk) ²		
1	Y	W14	4.30	×	0.735	×	910	=	2.88	0.910	2.62		9.204		
		W15	4.30	×	0.735	×	910	=	2.88	0.910	2.62		9.204		
		W16	2.40	×	0.920	×	910	=	2.01	1.820	3.66		1.552		
		W17	2.40	×	0.920	×	910	=	2.01	1.820	3.66		1.552		
		W28	0.60	×	(1.000)	×	910	=	0.55	0.000	0.00		3.977		
		W18	4.30	×	0.735	×	910	=	2.88	4.550	13.09		9.855		
		W19	2.40	×	0.920	×	910	=	2.01	4.550	9.14		6.885		
		W20	4.30	×	0.735	×	910	=	2.88	4.550	13.09		9.855		
		W30	0.30	×	(1.000)	×	1,820	=	0.55	4.550	2.48		1.871		
		W21	5.20	×	0.480	×	910	=	2.27	7.280	16.54		47.668		
		W22	3.30	×	0.585	×	910	=	1.76	7.280	12.79		36.868		
		W23	5.20	×	0.480	×	910	=	2.27	7.280	16.54		47.668		
		W29	0.60	×	(1.000)	×	1,820	=	1.09	7.280	7.95		22.917		
			(計)						Qu	=	39.27	Σ =	105.99	Σ =	297.414
							Qw	=	37.09						
							Qe	=	2.18						
階	方向	No.	Fw		Kj (Ka)		L		Qwi	Y	Qwi×Y	Yk	Qwi×(Y-Yk) ²		
2	X	W1	5.20	×	0.440	×	910	=	2.08	4.550	9.47	2.32	10.337		
		W2	3.30	×	0.577	×	910	=	1.73	4.550	7.89		8.610		
		W3	5.20	×	0.440	×	910	=	2.08	4.550	9.47		10.337		
		W18	0.60	×	(1.000)	×	1,820	=	1.09	4.550	4.97		5.422		
		W19	0.30	×	(0.000)	×	1,820	=	0.00	3.640	0.00		0.000		
		W20	0.30	×	(0.000)	×	1,820	=	0.00	3.640	0.00		0.000		
		W4	2.40	×	0.560	×	910	=	1.22	1.820	2.23		0.308		
		W5	5.20	×	0.440	×	910	=	2.08	0.000	0.00		11.224		
		W6	3.30	×	0.577	×	910	=	1.73	0.000	0.00		9.349		
		W7	5.20	×	0.440	×	910	=	2.08	0.000	0.00		11.224		
		W21	0.30	×	(1.000)	×	1,820	=	0.55	0.000	0.00		2.943		
			(計)						Qu	=	14.66	Σ =	34.03	Σ =	69.755
									Qw	=	13.02				
									Qe	=	1.64				
階	方向	No.	Fw		Kj (Ka)		L		Qwi	X	Qwi×X	Xk	Qwi×(X-Xk) ²		
2	Y	W8	5.20	×	0.440	×	910	=	2.08	0.000	0.00	1.95	7.946		
		W9	3.30	×	0.577	×	910	=	1.73	0.000	0.00		6.618		
		W10	3.30	×	0.577	×	910	=	1.73	0.000	0.00		6.618		
		W11	5.20	×	0.440	×	910	=	2.08	0.000	0.00		7.946		
		W12	2.40	×	0.560	×	910	=	1.22	0.910	1.11		1.332		
		W13	2.40	×	0.560	×	910	=	1.22	0.910	1.11		1.332		
		W22	0.60	×	(1.000)	×	910	=	0.55	0.000	0.00		2.084		
		W23	0.30	×	(1.000)	×	1,820	=	0.55	0.910	0.50		0.595		
		W14	2.40	×	0.560	×	910	=	1.22	2.730	3.34		0.737		
		W15	5.20	×	0.440	×	910	=	2.08	4.550	9.47		14.036		
		W16	3.30	×	0.577	×	910	=	1.73	4.550	7.89		11.691		
		W17	5.20	×	0.440	×	910	=	2.08	4.550	9.47		14.036		

階	方向	No.	Fw		Kj (Ka)		L		Qwi	X	Qwi×X	Xk	Qwi×(X-Xk) ²
2	Y	W24	0.60	×	(1.000)	×	1,820	=	1.09	4.550	4.97		7.362
		(計)					Qu	=	19.38	Σ=	37.87	Σ=	82.334
							Qw	=	17.20				
							Qe	=	2.18				

6. 耐力要素の配置等による低減係数 (偏心率) 【床の仕様】 II 火打ち+ 荒板 (4m以上の吹き抜けなし)

$$K_T : \text{ねじれ剛性} = \Sigma \{ Q_{xwi} \times (Y - Y_k)^2 + Q_{ywi} \times (X - X_k)^2 \}$$

$$e : \text{偏心距離 } e_x = |Y_g - Y_k|, e_y = |X_g - X_k|, \text{ 重心 } (X_g, Y_g), \text{ 剛心 } (X_k, Y_k)$$

$$r_e : \text{弾力半径 } r_{ex} = \sqrt{K_T / Q_{ux}}, r_{ey} = \sqrt{K_T / Q_{uy}}$$

$$Re : \text{偏心率} = e/r$$

eKfl : 耐力要素の配置等による低減係数、解表3.6により算出

階	方向	K_T		重心		剛心		e		re		Re	eKfl
2	X	152.09		2.28	—	2.32	=	0.05	/	3.22	=	0.015	1.000
	Y			2.28	—	1.95	=	0.32	/	2.80	=	0.115	1.000
1	X	390.39		2.28	—	3.17	=	0.90	/	4.28	=	0.210	0.834
	Y			2.98	—	2.70	=	0.28	/	3.15	=	0.089	1.000

7. 劣化度による低減係数

【築10年以上】

部位	材料、部材等	劣化事象	存在点数	劣化点数	
屋根 葺き材	金属板	変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれがある	2		
	瓦・スレート	割れ、欠け、ずれ、欠落がある			
樋	軒・呼び樋	変退色、さび、割れ、ずれ、欠落がある	2		
	縦樋	変退色、さび、割れ、ずれ、欠落がある	2		
外壁 仕上げ	木製板、合板	水浸み痕、こけ、割れ、抜け節、ずれ、腐朽がある	4		
	窯業系サイディング	こけ、割れ、ずれ、欠落、シール切れがある			
	金属サイディング	変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれ、目地空き、シール切れがある			
	モルタル	こけ、0.3mm以上の亀裂、剥落がある			
露出した躯体		水浸み痕、こけ、腐朽、蟻道、蟻害がある			
バルコニー 手すり 壁	木製板、合板	水浸み痕、こけ、割れ、抜け節、ずれ、腐朽がある			
	窯業系サイディング	こけ、割れ、ずれ、欠落、シール切れがある			
	金属サイディング	変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれ、目地空き、シール切れがある			
	外壁との接合部	外壁面との接合部に亀裂、隙間、緩み、シール切れ・剥離がある			
床排水		壁面を伝って流れている、または排水の仕組みが無い			
内壁	一般室 内壁、窓下	水浸み痕、はがれ、亀裂、カビがある	2		
	浴室	タイル壁	目地の亀裂、タイルの割れがある	2	
		タイル以外	水浸み痕、変色、亀裂、カビ、腐朽、蟻害がある		
床	一般室 床面	傾斜、過度の振動、床鳴りがある	2		
	廊下	傾斜、過度の振動、床鳴りがある	1		
	床下	基礎のひび割れや床下部材に腐朽、蟻道、蟻害がある	2		
合計			19	0	

劣化度による低減係数	$dK = 1 - (\text{劣化点数} / \text{存在点数}) =$	1.00
------------	--	------

8. 上部構造評点

階	方向	壁・柱の耐力 Q_u (kN)	配置等による 低減係数 eKfl	劣化度 dK	保有する耐力 $edQ_u = Q_u * eKfl * dK$	必要耐力 Q_r (kN)	上部構造評点 edQ_u / Q_r
2	X	14.66	1.000	1.00	14.66	11.69	1.25
	Y	19.38	1.000	1.00	19.38	11.69	1.65
1	X	21.29	0.834	1.00	17.75	27.16	0.65
	Y	39.27	1.000	1.00	39.27	27.16	1.44

(注) プログラムの計算は実数で行っている。上部構造評点 (edQu/QR) に対しては小数点第3位を切り捨てる。

耐震診断依頼者 ○○ ○○ 様

総合評価（診断結果）

【地盤】

地盤	施されている対策の程度	記入	注意事項
よい・普通の地盤			防災マップにより確認しました。
悪い地盤		○	
非常に悪い地盤 (埋立地、盛土、 軟弱地盤)	表層の地盤改良を行っている 杭基礎である 特別な対策を行っていない		

【地形】

地形	施されている対策の程度	記入	注意事項
平坦・普通		○	特に問題ありません。
がけ地・急斜面	コンクリート擁壁		
	石積み 特別な対策を行っていない		

【基礎】

基礎仕様	状態	記入	注意事項
鉄筋コンクリート基礎	健全	○	少シクラックが見られますが、構造上問題のあるものではありません。
	ひび割れが生じている		
無筋コンクリート基礎	健全		
	軽微なひび割れが生じている ひび割れが生じている		
玉石基礎	足固めあり		
	足固めなし		
その他(ブロック基礎等)			

【上部構造】

上部構造評点のうち最小の値	0.65（倒壊する可能性が高い）
---------------	------------------

注) 1.5以上:倒壊しない 1.0～1.5未満:一応倒壊しない 0.7～1.0未満:倒壊する可能性がある 0.7未満:倒壊する可能性が高い

【計算メッセージ】

※1.基礎・接合部の仕様が個別設定された壁があります。

【その他注意事項】

1階X方向が脆弱になっています。

診断者	▲▲ ▲▲	講習会	主催者	(一財)日本建築防災協会 (木造住宅耐震診断)
所属	▲▲設計事務所		講習修了番号	
連絡先	TEL:0564-xx-xxxx			